

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・例年に比べ来客数が2けた近く伸びていた昨年よりも、更に来客数が伸びている。 ・3か月前は前年比で5%ほど来客数が減少していたのに対し、今月は前年比で5%伸びている。
	やや良く なっている	一般小売店 [印章] (営業担当)	お客様の様子	・最近会社設立が増えたため、印鑑、ゴム印、挨拶状等の注文があり、少し前より上向している。
		百貨店 (営業担当)	お客様の様子	・気温が高く感じられたせいか、秋物が単品中心の買いであるが、後半はセット買いの客が増えている。
		百貨店 (売場担当)	販売量の動き	・9月の残暑のずれ込みと季節に応じた買物をする客の動きが重なって、4週間連続で催事場での売上が前年を大きく上回っている。 ・婦人靴の中でもロングブーツが前年の130%、婦人靴全体でも114%と大きく伸びており、店全体でも13か月ぶりに売上目標達成の状況である。
		スーパー (総務担当)	来客数の動き	・売上金額は低迷しているものの、来客数は順調に伸びて、来店頻度も高くなってきており、客の購買意欲が多少戻りつつある。
		衣料品専門店 (地域ブロック長)	お客様の様子	・低価格商品と高額商品の2極化はあるが、目的買いの客が増加しており、まとめ買いも出てきている。
		家電量販店 (店長)	販売量の動き	・先月に引き続き良くなっており、売上が前年比で2けた近く伸びている。 ・パソコンがリサイクル制度導入によるリバウンドもなく好調であり、大型、液晶、プラズマの各種テレビも好調である。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・週末と休日に個人利用、特に家族利用が若干増えてきている。
		旅行代理店 (経営者)	お客様の様子	・海外旅行が戻りつつあるなかで、例年並みとはいかないものの、徐々に来客数が回復している。
		旅行代理店 (営業担当)	単価の動き	・近場の旅行より、遠くの旅行が増えている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・3年前の米国テロ以来、初めて2か月連続で前年を上回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・夜の客は相変わらず動きが悪いが、観光客の動きが良くなっており、5か月ぶりに売上がマイナスだった時期を上回っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・昼間は福祉タクシー等の稼働により、何とか下げ止まっているものの、深夜は乗客が少ないうえに、あっても近距離客がほとんどで、単価が上がらない。
		テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・好天に恵まれ入場者が増加している。大型のイベントを開催したところ大きな反響があり、入場者も予想を上回っている。
競艇場 (職員)	販売量の動き	・10月2日～7日の6日間、自前の大きいレースがあったため、来場数及び販売量が増加している。		
変わらない	商店街 (代表者)	単価の動き	・商品単価が海外生産の増加で下降気味なので、高額商品の販売が伸びていない。	
	百貨店 (販売促進担当)	お客様の様子	・ヤング層では早くからコートが動くなど順調な推移をみせている。反面、ミセス層では単品での購入が増え、単価が下がる傾向にある。	
	百貨店 (購買担当)	お客様の様子	・10月に入り得意客に関しては、コート、ジャケット等の重衣料が動き出しているものの、一般の客はかなり低価格の商品を購入することが多い。	
	百貨店 (売場担当)	単価の動き	・月の前半はある程度健闘していたが、中旬以降は気温の下がり具合が例年より非常に悪く、単価の高い重衣料関係の動きが悪い。	
	百貨店 (売場担当)	来客数の動き	・9月は残暑の影響でどの店舗も非常に苦戦していたが、10月に入りいろいろな企画が当たり、来客数も前年より2～3割増加している。 ・ブーツの動きが非常に良く、前年の3割増しの売行きである。ただ、これが前倒しであれば、11月、12月と苦戦が予想される。	

百貨店（販売担当）	お客様の様子	・ストッキングやハンカチ、靴下などの消耗品や必需品の動きは好調ではあるが、シーズン商品であるスカーフ、ストール、手袋は、まだ気温も低くならないので、非常に反応が悪く、必要なときまで売れないのが現状である。
スーパー（店長）	お客様の様子	・例年なら新米が出始めると、新米も安い古米もよく売れるが、今年は新米の価格が高くなっているため、昨年産の古米も価格が下がらず、販売量も大きく落ち込んでいる。高い新米の動きも非常に悪く、消費者が非常に価格に敏感であることがうかがえる。
スーパー（店長）	お客様の様子	・1品単価の低下は下げ止まっているものの、買上点数、客単価はまだ低迷したままである。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合他社の出店が予測され、それに伴う各競合店の価格対応の動きが激しい。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・パンの新商品を発売したところ、今まで悩みながら購入していた客にも好評で、リピーターが増加している。 ・おいしいものは即決で金を払うが、そうではない場合は迷いながら特価の商品を購入する傾向がみられる。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ここ3か月、来客数は回復傾向にあるが、買上個数が減少している。 ・客は菓子、食品、雑貨などをコンビニで買うかスーパーで買うかを必要に応じて決めている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・洋服関係では10月の立ち上がり時期にかなり高額の商品が出ている。 ・単価的にはかなり良い物が出ているが、来客数の動きは昨年と比べるといまひとつという状態である。
家電量販店（副店長）	単価の動き	・来客数は増えているにもかかわらず、大幅な単価の低下のため売上高は例年に比べて低下している。パソコンの販売台数の低下が、単価の低下に大きく影響している。
家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・調理、健康用品などは前年を上回る売上で推移しているが、季節商品、音響商品で不振が続き、全体では若干の前年割れとなっている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・相変わらず少し大きい車両に関しては売上が悪い。 ・値引きの要求が非常に強く、競争が一層激しくなっている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・昨年はコンパクトカーの需要が多かった反動で、販売台数が昨年を下回っている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・生産台数の不足に起因しているところもあるが、商業車の売行きが伸びておらず、乗用車で補うにも限度がある。 ・法人関係の購入意欲がない。
乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・商用車は相変わらず伸びもなく、受注は小型クラスのみである。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・依然販売の主力は価格の安い大衆車という傾向が続いており、主要販売車種が中型車であるため、大変苦戦している。 ・同じメーカー系列でも、大衆車の新型車が投入された販売店は前年を上回って推移しているが、県内市場全体では前年を下回っている。
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・10月は冬商戦を控えて閑散とする傾向にあるが、好調であったナビゲーションも一息といった感じで、柱となる商品が見当たらず、特に景気が悪化しているという感じはしないが、良くもなっていない。
住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・月間売上を3か月前と比べると、婚礼、新築部門ともにはほとんど変化はない。 ・輸入家具の販売量は少しずつではあるが伸びている。
その他専門店 [時計]（経営者）	お客様の様子	・新しく商品を買うより修理や作り替えなどに客の注目がいつている。
都市型ホテル（総務担当）	お客様の様子	・申込件数はあまり増減がなく、客単価は下がる傾向にある。 ・現在は全体的に下げ止まった感はあるが、具体的な上昇要因はない。

	タクシー運転手	単価の動き	・3か月前から現在まで、タクシーの利用回数の低下、売上の減少が続いている。	
	その他レジャー施設 [温泉センター] (営業企画担当)	来客数の動き	・日帰り温泉部門の来客数の前年割れが恒常化し、非常に危機感を持っている。宴会団体の受注数は例年並みでも、単価に下落の傾向がみられ、個人客の動員も減っており、2重の厳しさとなっている。 ・温泉ホテル部門は、企画の効果から前年比で大きく伸ばしており、リピート率も期待通りの効果が出ている。	
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・契約件数はやや回復の兆しがあるが、単価がかなり低く押さえられており、件数増加と単価の低下により、全体の売上は横ばい状況にある。	
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・生鮮スーパーの撤退を期に、商店街に来る客の数が激減し、回復の兆しがない。	
	商店街 (代表者)	お客様の様子	・ブランド志向の学生が、昨年よりも安いブランドを買い始めている。	
	百貨店 (販売促進担当)	来客数の動き	・前月はプロ野球優勝セール穴を埋めるべく、営業費、宣伝費をかけて物産展等を大きく展開するものの、集客、売上ともにかかなり厳しい状況にある。	
	スーパー (店舗運営担当)	単価の動き	・競合店のディスカウント店への変更に伴い、特売品のみでの目的買いが増えており、従来通りの品ぞろえ品の動きが非常に悪い。	
	家電量販店 (店長)	来客数の動き	・10月18日、19日と県下の販売店130店余りが集まったの合同展示会を行ったが、来場は今年の6割である。 ・客は以前のように備えあればという購買はせず、必要な物しか購入しない状態が続いている。	
	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・新型あるいはマイナーチェンジの車種が出たにもかかわらず、販売台数は伸び悩んでいる。	
	住関連専門店 (広告企画担当)	お客様の様子	・新築などの高めの単価が期待できる客でも、何店も見回っている。 ・表示上の金額が低い物件を探している客が非常に多い。	
	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・夜遅い時間の集客が依然として悪く、深夜には予定の半分の売上になっている。 ・競合相手である全国チェーンの居酒屋も、大勢で商店街でピラ配りするなど必死である。	
	スナック (経営者)	お客様の様子	・選挙が始まったため、年配の客の動きが大変悪くなっている。	
	悪くなっている			
企業動向関連	良く			
	なっている			
	やや良く	鉄鋼業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・自動車を中心とした薄板や、造船、建築分野向けの厚鋼板などの販売要望が堅調で、建材なども在庫が徐々に減少している。
	なっている	輸送用機械器具製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べて受注量が多く、9月よりも10月の受注量が多いことは初めてである。
		輸送用機械器具製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量がやや増え、現在行っている仕事量は非常に多い。
		通信業 (社員)	受注量や販売量の動き	・支店内の事業計画の下期見直しにより、目標額を上方修正している。 ・既存客からの追加受注があり、稼働調整に苦慮しているが、新規顧客からの受注は依然として見込めていない。
		金融業 (業界情報担当)	取引先の様子	・取引先の多くがフル操業を継続中である。単価引下げの要求は厳しいが、数量効果でコスト吸収し、増収、増益基調を維持している。
	会計事務所 (職員)	取引先の様子	・製造業は夏場過ぎからの受注の順調さを維持しているが、相変わらず単価の状況は厳しいものがあり、気を抜けない状態である。 ・卸小売関係は売上の低迷状態が続いており、現状を打破するのは非常に厳しい状態であるが、やや持ち直しそうな気配もある。	

変わらない	非鉄金属製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量は全体的にはゆっくりと回復傾向にあるが、販売価格は下がる一方であり、特に電池材料に関しては、中国製品の台頭や最終製品である電池の値崩れ回復も期待できない状況であり、価格下落のスピードは早く、コスト削減策が追いつかない状況である。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・仕入れ商品の売上があまり伸びず苦戦をしているが、海外向けの自社製品の販売が増加傾向にある。	
	その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内販売低迷が続いており、本社では在庫が増加傾向であり、生産調整の指示が出ている。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量が低下しており、利益が確保できるような価格でなかなか受注できない。	
	通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・上半期の回線系サービス販売では回線数は出ているが、低価格のものが中心であることと、既存高額サービスからの乗換えの加速により、売上高は年初予測に達しておらず、今後更に悪化も懸念される状況である。	
	金融業（営業担当）	それ以外	・受注量や仕事の絶対量が少ないため、各企業で業績が上がっておらず、仕事を取り合うために赤字が続いている。 ・必要となっている運転資金は、試算表をみてもほとんど赤字補填資金となっている。	
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・人件費など基礎経費で手一杯であり、販促経費が出ないため、従来年間または半期で広告掲載を契約していたクライアントの打切りが目立っている。	
やや悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・昨年は適正価格での受注ができるよう取引先の見直しを図り、今年はコスト削減を図ろうとしているが、現状ではこれ以上絞り込むところがない状態になっている。	
	建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・マンションなどの建設案件はあるが、発注予定金額と見積金額とに20%強の差があり、なかなか受注に結び付かない。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	悪くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社 [求人広告]（広告営業担当）	求人数の動き	・新聞掲載の求人数が前年同月比で約110%になっており、徐々にではあるが上向いている。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・会社や業界の将来不安が転職の動機であるケースがこれまで多かったが、今月は3か月前に比べ求人依頼数が増え、逆に転職希望者数が減ってきており、不安が解消されて回復傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（支店長）	雇用形態の様子	・合理化や人員削減など対症的な動きが一段落しているだけで、戦略的な人材確保のための求人はわずかしくなく、職種により過不足感が現れてきているが、これも今に始まったことではなく、雇用全体が回復傾向とみるのは早計である。	
	求人情報誌製作会社（統括）	採用者数の動き	・求職人数は増えていないが、良い人材が欲しいという客の積極的な声が多くなっている。	
	新聞社 [求人広告]（担当者）	求人数の動き	・ビルの清掃や介護手伝いの臨時雇用の募集はあるが、正社員などの募集、求人は少ない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は増加したものの、月間有効求人数は減少傾向が続いている。 ・落ち着きのみられた企業整理による解雇者数が増加している。	
	学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・引き続き求人件数は、前年比で増加しているが、1件当たりの求人数は例年よりかなり減少している。	
	学校 [短期大学]（就職担当）	求人数の動き	・今春新卒採用をお願いした2,000社以上の県内外企業からは依然として求人票が届かず、短大新卒採用は依然として深刻な状況が続いている。	
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・大手百貨店のリストラによる大量離職が発生するなど、会社都合による離職者が7か月連続して増加している。	
悪くなっている	-	-	-	